

# TSUDA WELLNESS NETWORK

## NEWSLETTER

第 51 号 2020 年 9 月

### 東京オリンピックの競技役員として

吉田 伸枝 (英大 32)

1979 年共通一次元年マークシート世代などと揶揄され、ひとくくりにはされながらも津田塾大学に入学した日から 40 年以上が経ちました。4 年間で出会った人々は生涯の私の宝物です。とりわけレクリエーション教育を担当してくださった田中祥子先生は私にとって人生の恩師というべき存在です。

私は大学 4 年間水泳部に所属し、5 月から 9 月までは徒歩 10 分の一橋大学小平分校の屋外プールに通い、シンクロナイズドスイミング一色の学生生活でした。小学生の時初めてテレビで見たシンクロ。その時母に「これやりたい」と言ったもののどこで習えるものかもわからず、競泳を続けていました。大学に入学後もすぐサークルに入るのは躊躇していましたが、忘れもしません。必修の姿勢教育の授業で 5 月にスポーツテストがあり、たまたま同じグループになった高見教授のお嬢さんに一緒にやろう、と声をかけてもらい入部しました。翌月には学園祭でエキシビションをしていたので厚顔無恥も甚だしいですが、単にタイムを競う競泳とは違い人や音楽に合わせる楽しさ、表現スポーツの魅力などの醍醐味にすぐ夢中になりました。

体育が選択になった時レク教育の授業を取り、その時に出会ったのが田中祥子先生です。一般的なイメージの「体育の先生」とはちょっと違う雰囲気先生に惹かれるものを感じ、レク I、レク II と続けて田中先生の授業を受けるのは楽しみでした。勝つためにやるスポーツではなく、レクリエーションを楽しむ喜びを教えていただいたことは新鮮でした。津田塾大学を卒業後 UCLA に留学してレクリエーション教育を専攻していらしたと伺い、英文学科にしながら将来の夢が描けずにいた自分を顧みる機会にもなりました。

そんな時また高見さんが私に紹介してくれたのが井上則子先生です。「体育を専攻するために学芸大学の大学院に進学する人がいる」と聞いて、シンクロを学問的に研究することを真剣に考え始め、ロータリー奨学生に応募することを決めました。その際の推薦文は田中先生に書いていただきました。英語は tool にすぎない、英語で何を勉強するか、それが問題ですよ、とおっしゃっていただいた言葉は今でも忘れません。

結局ロータリーは不合格で一般企業に就職しましたが、その頃は既に日本水泳連盟のボラ

ンティアを始めており、競技運営のため全国いろいろな大会に出向きました。また、学生時代には指導員や審判資格を取得し、後輩の指導も続けて来ました。

母からは「ボランティアは1人前になってから」「シンクロさせるために英文科にやったんじゃない」とさんざん小言を言われましたが、それでも使命のようなものを感じ、止まることはできませんでした。

田中先生からはYWCA 野尻キャンプのキャンプリーダーのお手伝いの話を何度となくいただきましたが、夏休みは大会に追われそれどころではなく断り続けたのは本当に申し訳ないことでした。時が経ち、娘がYWCAの活動に関わるようになり、キャンプボランティアとして長年お手伝いさせていただいているのもご縁の賜物と思っています。

結婚、出産、育児、夫の海外駐在への帯同など節目はたくさんありましたが、シンクロのボランティア活動を途切れずに続けることができたのは結局のところ家族の理解（あきらめ？）や協力があったからだと思います。それぞれのステージでしなやかにできることをする、それもまたTsuda Spiritであろうかと思います。インドネシアの日本人学校のプールで小学生にシンクロ指導をしたことも楽しい経験でした。

2013年の東京国体では中心になって運営に関わり、ちょうどその期間中に東京オリンピックが決定したことは不思議なタイミングでした。2020年までは生きていなければ、と56歳で早逝した母に祈ったことを思い出します。

この数年はJapan Open という日本で行う国際大会で受付のチーフを担当しています。学生時代は英文科と言うものはばかれるくらいの低空飛行の英語の成績でしたが、はったりだけは利くようで錆びついた英語でなんとかこなしています。

COVID19のためにこの先の見通しが立っていない現時点ですが、2021年予定通りに開催される前提で準備を進めていくのみです。各国から東京に集結する選手や関係者との交流も楽しみです、一生の思い出になるシーンを作り出したいと心から願っています。



## 第 50 回 TWN 集会報告

### 『津田の森で God Jul ! 』 ～ Sako's Hospitality ～

柳下 史織 (国大 26、東京 YWCA 青少年育成事業部統括責任者)

♪みんなで輪になって みんなで輪になって みんなで輪になって 踊ろうよ～♪

参加者が手をつないで、津田梅子記念交流館の中を歌いながらリズムに乗ってまわっている様子が今も目に浮かびます。12月7日、Tsuda Wellness Network 集会で、北欧のクリスマスを楽しむ会を行いました。久しぶりの田中祥子先生のクリスマスパーティーです。当日は、学生、卒業生とその家族、井上先生、元教員・職員、子どもから 80 代まで 21 名が集まりました。

オープニングは **♪Silent Night**。歌詞カードには英語と日本語両方のせてあるので、どちらでも好きな方を歌います。その後、本田典子さんにお祈りをさせていただきました。そして **♪Alma Mater**。祥子先生からはスウェーデンに住んでいた時のクリスマスをお話してもらいました。家族と過ごす暖かいクリスマスの様子が感じられます。祥子先生は、私が学生だった時 (二十数年前も!) から、クリスマスの由来、その意味、本来の過ごし方を伝えたい、と授業やクリスマスパーティーで色々と紹介していただきましたが、今でも変わりません。

サンタさんはあわてんぼうなので、まだ到着しないようです。すると、そこにサンタさんからの手紙が届きました。これまたあわてんぼうのサンタさんは、お手紙の中の形容詞を入れ忘れてしまい、穴だらけのお手紙です。そこで皆が考えた形容詞を当てはめたのですが、楽しい、辛い、美しい、文脈にピッタリのものや不思議な内容になったりしながらサンタさんからの手紙が完成しました。クリスマス・ジャンケンは、「サンタ」「子ども」「プレゼント」で勝負。サンタは子どもに弱くて、子どもはプレゼントに弱くて、プレゼントはサンタに弱い、となります。みんなでジェスチャーを考えてジャンケンをしました。3回勝った人を先頭に大きな輪を作り、グループを作りました。初対面の人が多いのでグループごとに自己紹介したのですが、話が盛り上がります。他のグループへは他己紹介、知り合ったメンバーをみんなに紹介しました。クリスマス・ビンゴ、グループでクリスマスからイメージする言葉を考えてマス目を埋めていきます。他のグループも考えそうな言葉と自分たちだけしか考えないような言葉も必要です。意外やイエスは後者の方でした。そして冒頭の **♪みんなで輪になって**、続けて **♪Jingle Bell**、**♪赤いリボン**。喉も乾いた頃にティータイムです。井上先生が用意してくださった飲み物やクッキー、参加者からのお土産や手作りのケーキが並びます。佐藤道代さんのお母さま直伝のレシピで作ったリンゴケーキを食べながら、祥子先生から大学時代の道代さんとのお話を聞きました。私たち学生のことを本当に心から思ってくださり、いつも気遣ってくださっていたこと、そして今も気にかけてくださる慈愛に満ちた

祥子先生に感謝するばかりです。お茶とお話で盛り上がりながらクラフトにしました。赤と緑の折り紙を使って、スウェーデンハートを作りました。慣れてきたらグループのメンバーに教えてあげたり、より複雑にして作ったり、できたものにはお菓子を入れることができます。♪Godel Afton (スウェーデンの歌)、♪Joy to the World、最後はキャンドル・サービスでクロージングです。キャンドルスタンドからグループに灯りを分けて一人ひとりに灯しました。

終了後もパーティーは続くのです。あれもこれもとクリスマスキャロルを用意して歌いきれなかったものを、山口香菜子さんがピアノで演奏して、みんなで歌いながら、ハミングしながら、楽しく後片付けをすることができました。

久しぶりに祥子先生と一緒にプログラムを考える機会をもらえたことに感謝しています。改めてレクリエーションの核となるものを学ぶことができました。初対面の人も集まる会だからこそ、これはみんながもっと親しくなってからやった方がいい、みんなの動きを考えて順番を入れ替えよう等、当日もギリギリまでプログラムの流れを修正しました。大丈夫だろう、とか何とかなるだろう、と思うのでなく、どうしたら参加者みんなが楽しめる、居心地の良い場を提供できるかを追求していました。楽しいだけでなく、不安感や心配がなく誰にとってもセーフスペースであることが大切です。祥子先生は色々な人に役割をもってもらい主役になれる場面を作ってくださいます。祥子先生のホスピタリティに触れた一日、心が元気になった一日、参加して下さった皆さんにもありがとうございます。気持ちでいっぱいです。

#### プログラム

##### オープニング

♪Silent Night きよこのよる

お祈り

お話しスウェーデンのクリスマス

♪Alma Mater

♪O little Town of Bethlehem

サンタさんからの手紙

クリスマス・ジャンケン

自己紹介

クリスマス・ビンゴ

♪みんなで輪になって

♪Jingle Bell ジングルベル

♪赤いリボン

クラフト(スウェーデンハート)

♪Godel Afton (スウェーデンの歌)

♪Joy to the World もろびとこぞりて

キャンドル・サービス



## クリスマスパーティーに参加して

岡本 花奈 (国大 48)

ゼミ教授の井上先生から素敵なお誘いをいただいて、今回のクリスマスパーティーに参加しました。クリスマスパーティーには、幼稚園入園前の可愛い子どもから、人生の大先輩まで老若男女が参加していました。パーティーが開かれると、自己紹介に始まり、クリス

マスソングを歌い、ビンゴやお茶会などで、皆さんと楽しく交流しました。手を繋いで歌いながら家の中を歩き回るだとか、キリストに見立てた神聖なクリスマスキャンドルを灯して消すという、フィンランドのクリスマス文化を体験したのは初めてだったのでとても新鮮でした。特に、電気を消した暗い部屋の中でキャンドルを灯した時の、おぼろげな光が浮かぶ美しい光景が印象に残っています。さて、今回のクリスマスパーティーで陽彦くんという幼稚園年長の男の子に出会いました。柔らかそうな頬を持つ、賢く行儀の良い男の子です。彼の隣の席に座った私は、可愛い彼に興味津々に話しかけました。彼は色んなことを教えてくれました。住んでいるところ、習い事をたくさんしていること、お父さんが漢字を教えてくれること、そしてピンク色が好きなこと。お茶会では、私が陽彦くんにしていたように、私も年上の方々から質問を多くされ、私の就職先について「辛かったらすぐ辞めなさいね」と、親戚のように心配してくださいました。今回、陽彦くんからは彼の愛くるしい世界を教えてもらい、年上の方々からは、社会に旅立つ私への心配とアドバイスをいただきました。私はこのパーティーで、津田塾という繋がりを感じました。この繋がりのお陰で、上京4年目の私が、普段なら知り合うことのない方々とお会いし、親戚の集まりのようなこのような心温かい会に参加することが出来て、胸がいっぱいになったのです。私は3月で津田塾を卒業しますが、これからもどのような形であれ、この温かい津田塾に関わっていけるのならば幸せです。

私の目指すおしゃれな人  
～クリスマスパーティーに寄せて～

山口 香菜子 (国大 35)

何年かぶりに見る津田の森。2019年12月7日、私は夫と子どもたちとともに、田中祥子先生と柳下史織さんのクリスマスパーティーに向かった。大学時代に私も田中先生の授業で課題として企画したパーティーに、家族とともに参加できる日がくるとは夢にも思わなかった。田中先生の笑顔あふれるほんわかした雰囲気と柳下さんのあたたかな思いやり、そしてみなさんの楽しもうという気持ち。一つひとつが重なってできる素敵な空間に久しぶりに立ち会えて、心にあたたかいランプが灯ったような気持ちだった。今日は田中先生との思い出を重ね合わせて、みなさんに私の感想を届けようと思う。

受付にはいつものように色のついた紙が置いてあった。ああ、これはきっとグループ分けなんだな、と思いつつ好きな色を家族に選んでもらった。カラフルな色紙は私たちを大切な存在にしてくれる。どこから来たのかも、大人も子どもも関係なく、だれもが同じように安心してパーティーを楽しめるように。お祈りをして、歌を歌って、名前を覚える。お互いを

知ろうという愛でいっぱいのお己紹介にみんながまた笑顔になった。

クリスマスといえばサンタクロース。田中先生のパーティーではいつもサンタさんから手紙が届く。でも、必ずこう言われる。形容詞を言ってもらえる？と。なんのヒントもなく言われたらどんな形容詞を思い浮かべようか。楽しい、美しい、甘い、美味しい、つまらない、うざい(!)…。一人ずつ形容詞を言っていて、サンタさんが完成させられなかった手紙が完成する。できあがった手紙はなぜか毎回面白い。「( )クリスマスパーティーで、( )ゲームをして、( )な子どもたちと( )時間を過ごしてくださいね」どんな言葉が入るかな。

歌を歌って、手をつないでダンスをして、工作をして、お菓子を食べて。子どもの頃だったら当たり前になっていたことを、どうして私たちはしなくなってしまうのだろうか。学生時代にパーティーをするときに、先生はこう言っていた。「パーティーといえばね、アルコールを飲みたがる人って大勢いるでしょう。でもね、アルコールなんて飲まなくても楽しいのよ。」忘れていた子ども時代を思い出させてくれるパーティーは、心から楽しい。ああ、しあわせ。そう思って帰った。参加されたみなさんもそうだったら、もっとしあわせ。

幼少の頃、『アルプスの少女ハイジ』のアニメを観たことがある。山で暮らしていたハイジは突然フランクフルトで暮らすことになり、クララとは友達になったものの、なかなか都市の生活に馴染めず、ホームシックにかかってしまう。そんな中、童話の本をプレゼントしたり、森へ連れ出したりしてハイジの心の癒しとなったのは、クララのおばあさんだった。あたたかい笑顔でハイジの存在そのものを認め、その中身を引き出して相手を笑顔にさせてしまう、そんなおばあさん。「おばあさん」という呼称は失礼だと重々承知の上で、私はその空想上の人物に会ったような経験をしたことをみなさんに伝えたい。

もちろん誰だかはお分かりだろう。田中祥子先生だ。今では愛する母塾だと胸を張って誇りに思っているこの津田塾に、私は少し後ろ向きな気持ちで入学した。送られてくる書類も、オリエンテーションもなんだか退屈で、自宅から遠かったこともあり、ふらふらとさまようような気持ちで過ごしていた。けれども、特別教室でウェルネスセンター長として出てきた田中先生は、なんだか後ろに花柄の壁紙を背負って歩いているようで、ああ、この人を頼ってみようかなと思った。すぐあとで、ウェルネスセンターの先生の部屋をノックして、いろんな国から連れて帰ってきた雑貨に囲まれてソファに座った。後ろを向いていた私は、先生のあたたかい笑顔に癒されて少しずつ前を向いた。

私が大人になって覚えた大好きな言葉は、「笑顔は最高のおしゃれ」。先生はとっておしゃれな人。私も先生のようなおしゃれな人を目指している。先生、楽しいパーティーをありがとうございました。

## 2019 年度会計報告

(円)

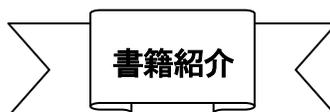
収 入	年会費	130,000
	集会参加費	5,500
	利子	10
	小計	135,510
	前年度よりの繰越	2,382,295
	合計	2,517,805

支 出	印刷費	6,700
	通信費	30,516
	集会費	49,045
	その他※	35,744
	小計	122,005
	次年度への繰越	2,395,800
合計	2,517,805	

※文具代、運営委員会会場費等

以上のようにご報告申し上げます。質問、ご意見等があれば事務局井上 ([inoue@tsuda.ac.jp](mailto:inoue@tsuda.ac.jp)) までご連絡ください。

\*\*\*\*\*



『ヴィータ 遺棄された者たちの生』  
 ジョアオ・ビール著 桑島薫・水野友美子訳 みすず書房 2019 年  
<https://www.msz.co.jp/book/detail/08786.html>

『障害者の傷、介助者の痛み』  
 渡邊琢著 青土社 2018 年  
<http://www.seidosha.co.jp/book/index.php?id=3235>

先月、2016 年に起きた相模原障害者施設殺傷事件の被告に死刑判決が言い渡された。被告は、「意思疎通が十分にできない障害者には人権がない」などと主張していたと報じられていた。私たちは「否」と憤りを感じるが、障害のある人たちとどのように「ともにある」ことができているというのだろう。

二冊の本をここで紹介したい。『ヴィータ 遺棄された者たちの生』と『障害者の傷、介助者の痛み』だ。

ヴィータとは、行き場をなくした薬物依存症患者や精神病患者、高齢者の保護施設（死を待つだけの場所）だ。著者はヴィータを訪れ、精神病とみなされるカタリナと出会う。彼女の語りを書き留め、ライフストーリーとしてまとめたのがこの本だ。

「脈絡がなく、支離滅裂」と思われたカタリナの語りを著者が受け止め調査を進めていくと、新自由主義下のブラジル社会で、カタリナがどのように周縁化されていったのかが浮き彫りになる。周縁化されていく過程で、カタリナの言葉はだれにも受け止められなかった。彼女の生きた軌跡が明らかになるにつれ、「言葉を忘れないために」カタリナがつづってきた言葉の“脈絡のなさ”や“支離滅裂さ”は、払しょくされ、意味を取り戻していく。

『ヴィータ』という本で示された世界は、ブラジルで特異に起きている出来事では恐らくない。日本のかつての姿でもあり、もしかしたら現在の像にも限りなく近いものだ。

日本の状況について考えるとき、示唆深いのが『障害者の傷、介助者の痛み』という本だ。現場経験を持つ著者が、地域で生きていた人が障害者施設へ入所することでどのように“適応”させられていくのか（虫捕りが好きだった方のお話が印象深い）、言葉を失っていく過程、一方で職員や介助者が抱く葛藤についても言及している。

人間が人としてただ生きていくことを切望する／奪われている人（そして語られない多くの人々）の姿を通じて、「ともにある」ことについて深く考える機会を与えてくれる二冊だ。そのこと自体が皮肉だが、「ともにある」ことを希望を持って眼差していくうえでも非常に重要な二冊と思う。ぜひご一読ください。

松崎良美（英大 58）

## 次回 Tsuda Wellness Network 集會中止のお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、既に今年度は年 2 回開催のうち例年 4～5 月に開催しております 1 回目の集會を中止いたしました。この時期になりましても未だに感染拡大は収束の兆しが見えず、例年 10～12 月に開催しております 2 回目の集會も残念ながら中止することとなりました。

安心して集會を再開できるようになった際には、会員の皆様に楽しんいただける企画を引き続き考えていきたいと思っております。その時をお待ちくださいますよう、お願い申し上げます。

編集・発行：Tsuda Wellness Network 事務局

187-8577 小平市津田町 2-1-1

津田塾大学ウェルネス・センター内

Tel: 042(342)5147 Fax: 042(342)5144

e-mail: [inoue@tsuda.ac.jp](mailto:inoue@tsuda.ac.jp)

事務局担当：井上則子（数大 30）

編集責任：江尻美穂子（英大 4）・田沼祥子（理科 1）・岡伊織（国大 15）